NIE実践報告

1．タイトル：☆社会にひらくNIEの学習開発（III）

2．学校名

広島県広島大学附属三原小学校

3．実践者名（代表者名）

長野　由知

4．学年

第4学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語科・総合的な学習の時間　38人

6．単元（本時の学習課題）名

自分の意見を伝えよう

7．目標(狙い)

自分が選んだ新聞記事を書いた記者に向けて意見文を書く活動を通して、自分とは違う立場の人へと視野を広げ、自分の考えを深めることができるようにする。

8．評価の視点

新聞記事に描かれた人物の生き方やその記事を書いた記者からのメッセージを読み取り、視覚障害者とのかかわりについて考えたことを意見文にまとめて書くことができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

・国語科「点字を通して考える」（黒崎惠津子　学校図書4年下）（12時間）
・総合的な学習の時間「自分とは違う立場の人のことを考えよう」（6時間）　合計18時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

第1次　「点字を通して考える」を読もう（12時間）
・点字の歴史やその発展に寄与した人物について書かれた説明文の構造を明らかにする。
・筆者黒崎惠津子さんからのメッセージを読み取り、第2次以降の学習に対する課題意識をもつ。
第2次　記事から自分の考えをまとめよう（3時間）
・毎日新聞の特集記事「ブライユ生誕200年：点字が拓く」1~　6を通読する。
・特に心に残った記事を一つ選び、自分の考えをまとめ、以下の構成で意見文の下書きをする。
①記事の中で一番心に残ったこと
②記者から受け取ったメッセージ
③①②を受けての自分の考え
第3次　記者さんにメールを送ろう（3時間）
・下書きした意見文を、パソコンでローマ字入力し、記者に宛てて電子メールを送る。
・記者の方から届いた返事を読み、考えた事を再度電子メールで送る。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

国語科において課題意識を耕した後に、具体的な人物の生き方について書かれた新聞記事を扱うことで、抵抗感なく記事の内容を読み取ることができた。子どもたちは、新聞記事に描かれた人物の姿を「一人の人間」としてとらえ、記事を書いた記者からのメッセージを想像して、自分の在り方を考えることができた。

12．成果と課題

記者の存在に焦点を当てたことにより、相手意識を明確にして学習を展開することができた。電子メールによる記者との双方向コミュニケーションを通して、視覚障害者の立場に問題意識をもつ人物の多さを感じ、同じ社会に生きる存在としてとらえ直すことができた。また、記者の方に自分の考えを受け止めてもらうことや自分自身を高めようと努力している姿を知ったことで、勇気付けられ、社会へ参画しようという意欲をもつことができた。新聞記事の背後にいる記者からのメッセージを読み取る力は、情報読解力の基礎であると考えられる。今後は、その関係を明らかにし、育成方法を開発したい。